

8番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。済みません、初めてここに立ちますので、また違う雰囲気の間違ったりするかと思いますけれども、よろしく願いいたします。

先ほど一番若い上田議員の次に、私は本当に年配の方で2番目の上野でございます。本当に行政も若返ったという話を聞きながら、ああ、私は本当、でもやっぱり行政にも年寄りも若いのも、女性も男性もいるということで、私は年配の方でいろいろ気づきをしていきたいと思っております。

ただいま議長より発言の許可を得ましたので、一般質問の通告に従って質問をしたいと思っております。

私は去る4月16日の選挙によりまして、新武雄市の皆様の多くの負託により当選させていただきました。きょうここに登壇したところでございますけれども、この選挙戦を通じまして私を支持して下さったたくさんの方々の中から御要望の最も多かった2点について、きょうは質問をいたしたいと思っております。執行部の前向きな回答を期待いたしております。

まず、1点目の下水道整備の問題です。

下水道整備につきましては、本当に専門的には難しくて私にはよくわからないところもありますけれども、私たち一般住民が心配していること、お聞きしたいことを質問いたします。

ことし3月、1市2町による新武雄市の合併が行われました。この合併による旧市町の下水道整備を見てみると、山内町では平成18年度中に、現在施行されている大野地区の供用開始をもってすべての下水道整備が完了すると聞いております。旧武雄市域では武雄町を中心とした都市計画区域の下水道整備が取り組まれ、その他上水道水源の上流部の集落について下水道の整備が完了していると聞き及んでいます。私が居住する北方町では第一に総合計画を策定するために取り組まれた町民アンケートで、一番要望の多かったのが下水道整備解決に向けてのことでもございました。平成11年度から南部橋下地域6集落については下水道整備が取り組まれ、平成15年4月1日をもって供用開始がされております。しかし、北方町の人口の約8割を超える大字志久、大崎地区が未整備となっております。この北方町北部地域の人口密集地の下水道整備についてどのような計画になっているものか、お考えをお聞きしたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

おはようございます。お答えを申し上げたいと思いますが、私の方からは今話がありました中身について確認の御報告を申し上げたいと思えます。

今、御質問ありましたとおり、山内町は平成18年度で全域農業集落排水で整備が完了をいたすことになっております。また、旧武雄市域につきましては、市街地部については公共下

水道事業を現在実施いたしております。それから、矢筈地区、川内地区、先ほど御質問がありましたとおり、上流部門でございますけれども、この分については農業集落排水事業で整備を行っております、矢筈地区は既に実施をしておりますが、川内地区は現在事業を継続中でございます。北方町につきましては六角川南は農業集落排水事業で整備が進んでおりますが、今現在ではそういった状況でございます。議員御質問のとおりでございます。（発言する者あり）

議長（杉原豊喜君）

静かにしてください。

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から市長として今後の方向について御答弁させていただきます。

私は、下水道はある意味、最後に残された公共事業だというふうに思っております。しかし、物すごくお金がかかります。それは10年前、20年前に公共下水道を布設するときと比べて市の負担、あるいは個人負担が激増している状況にあります。この点を考慮いたしまして、私はまず財政状況はきちんと把握をしたいと思っております。その上で議会ともよく相談しながら、平成19年度までに新市での下水道整備計画を策定いたします。その上で基本的な考え方いたしまして、この下水道については公共下水道並びに農業集落排水、浄化槽の3点セット、これはメリット、デメリット、それぞれあります。それをうまく組み合わせて財政負担がかからないように策定をし、年次的に整備を行いたいと考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

はい、計画についてよくわかりました。

済みません、ダブると思いますが、私が調べたことについてちょっとよろしいでしょうか。計画の方はわかりましたけれども、その計画については先ほど一番初めに申し上げましたように、私どもは計画としましては何か後退したような感じに聞こえました。

今からちょっと、済みません、質問のやりとりがわからなくて、いろいろちょっと間違っていると思っておりますけど、聞いてください。整備計画は市長の方からも伺いました。財政の面についてもいろんな面についても理解できると思っております。

まず、もう少し現状をお聞きください。新武雄市の中で下水道整備について現状を見ますと、山内町は今おっしゃったように農業集落排水で5地区のうち4地区は整備、もうすぐ全部ですね、100%完了となっております。北方町は本当に今言ったように、六角川以南の橋下地区は約290戸、武雄市はおっしゃったように矢筈地区の50戸が農業集落排水整備が完了ただけで、現在、農業集落排水事業で川内地区の約60戸、また公共下水道で温泉街を中心

とした市街地32ヘクタール整備中で、来年度は供用開始する予定と聞いております。

完了の下水道整備率を見ても、山内町100%、北方町13%、武雄市5%です。大変な数字だと思っております。本当に非常に低い整備率です。ただ、トイレの水洗化につきましては、農業集落排水事業や公共下水道の集落処理によるものばかりでなく、合併浄化槽も、市長がおっしゃったように、個別処理による水洗化もできております。これまで武雄市、北方町では、先ほどおっしゃった合併浄化槽についてもですが、北方町では164基、武雄市では1,680基に対し今まで補助がなされております。しかし、合併浄化槽を加味して整備率を想定してみても、武雄市、北方町は約20%にしかありません。いかに下水道整備がおくれをとっているかということがここでもはっきりしていると思うんです。

それで、北方町では本当に立ちおくれた下水道整備による水環境の悪化を懸念して、このままお金がないからできない、じゃあ、このままにしているのか、それではいけないだろうということで、行政とともにこれ以上水環境を悪くさせない。家庭環境を水回りから改善しようということを合言葉に、微生物による河川浄化を平成13年当初から取り組んでおります。

今日は町民の約4割を超えると自負しておりますが、この運動に参加しています。そして、下水道になる前に河川浄化に取り組んでおります。そして、下水道を目指して、そこまではうっておけないということで取り組みをしております。この事業の運営を今はNPOにお任せしております。立ち上げるときは行政とともに一緒になって立ち上げてまいりました。このNPO初め北方町では、水は命の水、人間の体は20歳前後の若者ですら体重の70%は水と言われております。合併協議のときには北方地域の下水道整備は平成22年度からと聞いておりました。今の執行部の答弁では何だかちょっと見直しがおくれたように思いますが、再度答弁をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答えを申し上げたいと思います。

先ほど市長が答弁いたしましたけれども、下水道整備計画を現在、新市として作成をするということになっておりまして、今その準備中でございます。この下水道整備計画ができましたら、それに基づいて下水道の整備を行っていくということにしております。確かに議員おっしゃるとおり、合併協議の中では平成22年度からというようなことも一部聞いておりますけれども、その前に合併した後、下水道整備計画をつくるということになっておりますので、それに基づいてやっていきたいというふうに思っております。現在のところ、平成22年というような、いつから始めるというようなことは、まだはっきり申し上げることはできない状態でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から総括的な答弁をさせていただきたいと思います。

私も先ほど答弁したように、下水道はこれからの豊かな生活、あるいは観光都市としてもこれは絶対せんばいかんというふうに思っているわけです。しかし、我々行政を預かるものとしては、福祉、あるいは子育て、あるいはきのうも質問で出ましたけれども、道路等々の整備に、これまた多大な費用を要します。この優先順位をどのようにつけて、どのように住民の皆様にも痛みを込めて説明するかというのが私と議会の政治家としての仕事だというふうに思っております。私もしたいです。

しかし、ぜひお考えいただきたいのは、この優先順位です。私は下水道に関して言えば、財政破綻を招かないように年次的に進めるつもりでありますので、どうかその辺の御理解を賜りますことをお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

市長のお気持ち、重々わかります。また、下水道整備が私たち文化生活の中では最大の目的であるということもしっかり市長がとらえていらっしゃるということにはありがたく思います。お金がないというのもわかります。しかし、私たちは住環境の整備があってこそ福祉もあり、いろんなものがその上に成り立っていくんじゃないかと思えます。大変な事業だと思えますけれども、先ほど市長がおっしゃいましたように、3点セットでそれぞれ有効な方法で策定計画をなされると思いますが、その3点セットの中身についてちょっとお伺いしてもよろしいでしょうか。その中でメリット、デメリット、私の方でも一応聞いてはおりますけれども、ここに新しく出てまいりました方法について説明をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

メリット、デメリットということでございますけれども、汚水処理という観点からのみ考えますと、下水道事業も浄化槽の市町村型も同じでございます。これは受益者にとってはどちらも同じという意味でございます。ただ、浄化槽整備事業には個人型設置、市町村型設置等がございます。これにつきましては水洗化率の早期向上という点では市町村型がすぐれている。ただ、建設費については、市町村型は安価であります。その後の維持管理に非常に多大な費用を要すると。それから、下水道事業の方がそういう面では経済的であるというふうに言われております。一般的には市街地のように密集地域、こういったところは集合処理の方が有利、家屋が分散している地域については個別処理の方が有利ということになるうか

と思います。

大まかなメリット、デメリットは、今申し上げたようなことでございますけれども、市町村型のメリットというのを一つだけつけ加えたいと思いますが、施設を設置すれば水洗化がすぐにできるというメリットがございます。ただ、この場合には施設整備が非常に早いわけでございます。それと建設費も安価でございますけれども、先ほど申し上げましたように、その後の維持管理が非常に高くなって厳しいものがあるというふうに認識をしております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

ただいまのメリット、デメリットについては大体わかりましたけれども、それでは我々住民にとってはどちらを 地域によっては浄化槽を進められるとわかります。点在しているところはできないということもですね。密集しているところ、いろんなところあるので、それぞれの方法でされると思いますが、行く行くは、先々は私たち住民にとっては市民型が、市町村型がいいものなのか、浄化槽が 受益者負担というのもどちらもあるとは思いますが、つくるときは、今おっしゃったように早くできる、すぐできます。でも、下水道は長くかかるとか、いろんなメリット、デメリットありますけど、先々は我々住民にとってはどちらが有利だと思いですか。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

住民にとって一番何が有利かと申しますと、それは市町村型だということになるかと思えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほど答弁いたしましたとおり、個々の便益を考えれば、市町村型がベストというふうに考えますけれども、ただし後の維持管理で負担が伴います。この場合、税ということまで加味いたしますと、どれがベストかということに関しては、私はそれぞれメリット、デメリットがあると思いますので、ここでどの時点でメリットか、あるいはこの時点までとってメリットなのかということは、もう少し詳細にですね、あるいは地域ごとによっても違いますので、それはまた御説明を改めてさせていただければというふうに思っております。非常に難しい問題です。

議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

8 番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に難しい問題だから、私もたくさんの住民の方からの意見をお聞きするわけです。本当に難しく、今は高齢化が進んでまいりました。いろんな意見があります。年寄りの年配のひとり暮らしの方たちは、もうこれはつけんでもいい、これだけここに800千円、1,000千円出したら私たちの生活は大変だから、せんという方。それから、市町村型をつけたにしても、後々のことを考えると維持ができない。どうしたらいいかと、本当にそんな切実な問題が寄せられるのです。そして、ある面、市長がおっしゃったように、浄化槽をしているけれども、やぐらしかと、いつもいつも検査があって、掃除をしたり、それもお金がかかる。もう下水道にした方がいい。でもあなたのところは点在しているところだから下水道するには行政としては大変なお金がかかる。本当にたくさんの問題を抱えております。でも最終的にはそこまで持って行って住環境をよくしていただきたいという私たちの願いもあるのです。

どちらを取る、本当に難しい問題でございますけれども、どうぞ市長は今までお考えになりましたように、これこそ住民のいろんな意見を聞いていただいて、アンケートでもとっていただいて、そして本当によりよい下水道の整備をさせていただきますよう要望して、次の質問に移りたいと思います。

次に、市長の最重要課題とされております障害者に優しい市づくりについて質問をいたします。

これは本当に私ごとですけれども、今回の選挙でちょっとひざを傷めまして、しばらく不自由な日々を過ごしてまいりました。初めて武雄市の庁舎に参りましたときに、議場まで来るのが本当につらかったのを覚えております。エレベーターは2階までしかないし、あと3階、4階は階段だし、そしてまた、本当に小さな段差でもひっかかるし、つまり、身をもって障害のある方の大変さということを体験できました。そしてまた、庁舎内だけじゃなくて、ちょっと外も歩いてみましたけれども、本当に障害を自分が持って歩いてみられたらわかると思いますけれども、議場に来るのも大変ですけれども、町を歩くのも大変です。市長がおっしゃる本当に障害者に優しい市づくりというのは、目の前にたくさん課題を抱えているように思います。

健康のときには本当に理解できませんでした。このくらい何のことあるかと思っておりましたけれども、障害というのはこんなにつらいものなのか、そして人には見えないものなのかということを経験いたしました。そしてまた、庁舎に来て驚いたことには議場のある4階には女子用のトイレがありませんでした。これにも私は驚きました。男女共同参画推進を県下先駆けて進める武雄市として、本当に女性蔑視じゃないかと言われても仕方がないことじゃないかなあと、びっくりいたしました。でも、幸いなことに、それは早速に女性の洋式トイレをつくるということをお聞きして、図面も見せていただき、よかったなとは思って

おります。

そして、そのトイレのことですけれども、この庁舎内のトイレも全部使わせていただきました。そして、いかにやっぱり私たちの生活に一番密着しているトイレでさえこんな状況か。そしたら、やっぱり市長は初めて来られていろいろわからなかったと思いますけれども、本当に障害者に優しい市づくりをするのは本当にこの足元からしなくてはいけないんじゃないかなと思いました。

済みません。庁舎を初め私が質問したいのは、公共施設、特にここは市民が一堂に集うところです。必ず市庁舎には来るところです。ここがこういうふうであるということ。じゃあ、ほかの公共施設はどうなっているのか。学校初め公民館など、今の私が言いました障害者に対する思い、そういう面から見たときにどういう見直しをすべきところがあるかということ。をどのくらいまで把握していらっしゃるのか、私もお聞きしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

公共施設はいろいろあろうかと思いますが、まず学校等の教育施設についての状況を御説明したいと思います。

各施設ちょっと回りまして、例えば学校で申しますと、スロープとかがないとか、階段がないというようなところが幾つか散見をされております。また、ほかに車いすが使えるトイレとか、そういった課題も幾つかあるようでございます。また、公民館についても今後、改善を要するものが幾つか見られました。あと文化会館とかエポカル等については大体改善ができていうふうには思っております。軽微なものについては、今後年次計画でそういったバリアフリー化を進めていきたいというふうには思いますが、大規模な改造等を要するものについては、施設の改修時期等に合わせて改善を図っていききたいと、こういうふうを考えております。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

市の福祉施設の関係の状況を答弁いたします。

市の施設は4保育所と北方町にある老人福祉センター長寿園、武雄町の日輪荘であります。いずれもバリアフリーが問題化される以前に建設されています。保育所についてはバリアフリーを含め、危険箇所など問題がある箇所については随時改修を行ってまいりました。老人福祉施設については、長寿園は便所の改修、エレベーターの設置、日輪荘においては平成8年の改修時に玄関の段差解消、平成12年にはエレベーターの設置を行っております。

議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

8 番（上野淑子君）〔登壇〕

大体状況はわかりましたけれども、私が回って、見たり聞いたりしたところによりますと、小さな改造はそれぞれ随時されておられるようですけれども、学校につきましても本当に財源が厳しいということはわかっておりますけれども、ある学校は3階にはトイレがないとか、本当に少子化の中で子供たちを大事にしていかなきゃいけない、快適な中で勉強をさせていきたいと思う中で、3階にトイレがないというのはどういうことなのかとかですね。それから、今は本当に学校も障害児がふえました。それから、身体障害、知的障害児もですが、本当にだんだんふえてきておる状態だと思います。そんな状況の中で、車いすで来た子供たちが学校で健常児と平等に学ぶことができる状態にあるかということですね。本当に危惧いたします。これではできないなあということを把握してまいりました。

でも、今それぞれの部長さん方がおっしゃったように、随時しているということですが、本当に学校は、子供たちは一年一年進級していきます。随時しているうちに卒業してしまいます。それで本当に財政厳しい、財政困難の中とは思いますが、そんなに莫大なお金をかけて改修とか改築とかしなくても、小さな箇所はできると思いますので、本当に早急に取り組んでいただきたいと思っております。本当に学校も行かれてみるとわかるし、それから皆さんも私たちも障害者になって考えてみれば、口先だけで障害者に優しい云々かんぬんと言っておりますけど、実際になったときに、本当に同じ市民でありながら、平等に何でもできるかということを考えていただきたいと思っております。

では、今おっしゃったような計画をとにかく早く確実に安全にさせていただくことを望んで、次に移りたいと思います。

次に、道路についてお尋ねいたします。

この道路についてもですが、全市内くまなく歩くだけの健康状態ではなかったので、今回、私が見た、そして感じたことについて全体的なことをお尋ねしたいと思っております。もう皆さんも御存じだと思いますけど、道路の路面状況は本当に悪くて、歩道の設置がないところも多く見受けられました。道路についてはこのような状態を行政としてはどのように把握をされているのか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

道路の状況でございますけれども、各地域ローテーションを組んで、現在、職員が巡回をし、点検補修を実施しているという状況でございます。ただ、危険箇所につきましては各種団体、道路管理者、交通安全管理者等が点検をなされた後、連絡を受けた部分、こういったものにつきましては現場確認を早急に行い、職員で対応できるものは応急処理、それから



規模が大きいものにつきましては工事を発注して対応しているというふうな状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

大体そういう状況だと思いますけれども、道路の計画の見直しというのはどういうふうになっているのかと思います。建設じゃなくて、補修といいますかね、ここに穴がほげたからここを修理しよう、こっちができたからこっちというふうに応急処理じゃなくて、計画というのは大体どういうふうになっているかということをお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

道路の改良でございますけれども、道路の改良につきましては、急いでやらなきゃならない緊急的なもの、そういったものにつきましては予算を組んで道路改良を図っていくというふうに計画をいたしておりますが、財政状況等々勘案しながらのことでございますので、なかなか進んでいないのが実情でございます。おっしゃるとおり、応急的な処理というもので現在に対応しているのがほとんどだというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から今後の方向性について答弁をいたします。

私は既に具約に載せておりますけれども、ナンバー26のところで、高齢者、障害をお持ちの方、子育て中の皆さんが積極的に社会参加できるよう市街地バリアフリーマップを策定し、その上でユニバーサルデザイン計画を策定しようというふうに思っております。

私は、バリアフリーの考え方については、すぐしなきゃいけないところ、あるいはこれは言い方が悪いですが、ちょっとまだそれが終わってからのところと、いろいろあると思います。これには計画的に計画に沿ってやりたいというふうに思っております。したがって、計画的な部分と、先ほど部長が答弁した緊急避難的なところ、これをあわせて今後やっていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。具約26のことについて、本当に実現できることを楽しみにしております。それから、もう一つ質問ですけれども、巡回パトロールというのはどういうふうな計画で

なさっていらっしゃるのか、聞きたいと思いますが。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

現在、職員が1名配置をされておまして、この職員が巡回をしながら回っております。それと同時に、この職員が緊急的なところについての補修を同時に行うというような形でやっております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私の方から補足といたしまして、危険箇所につきましては各種団体、道路管理者、交通安全管理者が一体となって職員1人をカバーするような仕掛け、仕組みを実施しております。しかし、これにつきましては、点検範囲については、何分、人の措置がありますので、安心歩行エリア内1キロを点検しておるという状況であります。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。それではもう合併して何カ月なりますけれども、どの地域も全部回られてお気づきの点があればと思いますが、大体の状況をお知らせください。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

3月に合併をいたしましてから既に3カ月以上経過をいたしておりますけれども、緊急補修的なものの要請が非常に多ございますので、その対応等を兼ねながらやっております関係で、職員がすべての地域を回ったというところまでにはまだ至っておりません。今、随時全市的に回るという形でさせております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に広い地域で、1人で回られるのは大変だと思いますけれども、巡回パトロールというのを本当に重視していただきたいと思います。せんだっての大水の時も大変だったと思いますけれども、私たち北方町にしる大水の地域、山の地域いろいろあります。私も選挙で

回ってみて、ああ、大変な地域があるなあということも認識しておりますので、どうぞ巡回パトロールをできれば人数でもふやされて、本当に確実に回っていただけて見ていただくようにしたいと思います。巡回パトロールについては、ただ回りましたじゃなくて、真剣に回っていただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

建設部につきましては、道路の関係は北方支所、山内支所、両方にもございますので、その両課長並びに担当職員、それから私とうちの課長、担当職員と一緒に一応、今現在、山内、武雄、北方を2回巡回させていただきました。ただ、これは主なところだけになっておりますので、再度、もう少し細かい点まで巡回をしようということで、それぞれ課長も認識をするようにということで今計画をいたしております。そこら辺で、そういう緊急にしなきゃならないところ等々がありましたら、早速やっていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も先ほどの議会答弁のやりとりを真摯に受けとめて、この人員についてはふやそうというふうに思っています。しかし、そこで一つお願いがありますのは、ふえるとそれがまたほかの行政にしわ寄せがいくことを御理解願いたいというふうに思います。したがって、これをふやすということは、ここの部分は削んしゃいということもあわせてお話しいただければ非常にありがたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

とにかく財源に基づいてということで、それは重々わかります。こっちをふやせばこっちを減らす、それもわかります。こっちも減らされては困る、あっちも減らされては困るというのが私たち住民の考えでございます。ですから、このときの提案でありますけれども、それぞれの地区にいろんなボランティアの方がいらっしゃるから、その方たちから情報を集めるとか、いろんな方法も加味していただければなと思っております。

それから、先ほど市長が優先順位をするのは本当に大変だ、いろいろ本当に優先順位を決めるのも大変だと思いますけれども、この道路に関しましては、私たち住民も本当にみんな真剣に自分たちの毎日歩く道ですから思っております。どんな優先順位でされるのかというのを私たちはいつも見ております。ですから、本当に我々住民に納得できるような優先順位をみんなに公開していただいて、そして道路に取り組んでいただきたいなあと思っております。

す。

では、次に移ります。次に、エレベーター設置についてでございます。

これも本当に財政にかかわることなので、言っているものか、いけないものなのか、本当に悩みます。市長の話の聞いていて、財政を見ながらでも、ないのはわかっておりますけれども、こちらもこれがないと困るというので言わせていただきたいと思います。

本当にエレベーターの不便さというのは今まで庁舎に訴えというか、苦情というのはなかったものなのか。それから、エレベーター設置についてはどのようなお考えなのか、お聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

まず、庁舎の建設の経過を若干申し上げますと、昭和41年に建設をされておまして、非常に今庁舎が建っております場所は地質が軟弱地盤で、当時、たびたび水害に見舞われていたというようなことで、構造上、現在のような1階に機械室、そして2階に市民向けのフロアを設置した窓口部門を設置しております。そういったことで、非常にバリアフリー的な問題も指摘をされまして、平成7年に2階までにエレベーターを設置しております。ただ、先ほど申し上げましたように、庁舎の構造とかたびたび出てはいますが、財源等の問題等で4階までのエレベーターは現在設置できないという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も余り財源、財源と申し上げるつもりはありませんけれども、ここで2点について考えていただきたいというふうに思っております。

1点目は、庁舎の構造を考えた場合に、これは耐震構造になっていないことからすると、果たしてここにエレベーターをつけて、そのまま市の、あるいは新幹線が通ったりします。そのときに本当にその応急措置でエレベーターの場合50,000千円、エスカレーターの場合は16,000千円というふうに言われております。それをつけていいものか。それか、あるいはちょっとこれは市民の方々に我慢をしていただいて、新たに庁舎をこの際、建てた方がいいのか。これは合併特例債の期限もあります。そこは市民的な議論が私は必要だというふうに思っております。私はつけることについてはやぶさかではありませんけれども、庁舎全体の問題としてこの際考えるべき問題ではないかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

わかります。必要性もわかっていらっしやると思います。しかし、それではこのままにしておいていいのか。庁舎の建設をするにしても、あと何年かかるのか、まだ計画もあれだと思えますけれども、そういうところを考えた場合に、一般の私たちから考えたときに、4階のこの議会に、私たちは開かれた議会、開かれた行政というのをみんなで見て、みんなで判断し、みんなで聞いて進めていこうという市長の考え方に対して、では車いすの方はここまで来てはいけないのか。それは言われたんですよ。車いすがない、私たちの県の婦人会館ですけれども、エレベーターがありません。それで3階まで会議室はありますけれども、そのときに車いすで来られた方は、じゃあ、私たちが拒否するんですかと、そういうことがあっているんです。それで、そのときは本当に、ああって、今は一生懸命エレベーター建設について基金を婦人会の方でためております。

それで、本当に私たちは平等だ、本当にみんなでしていこうでって口ではきれいなことを言っておりますけれども、じゃあ、ここにどうして来られますか。今言ったのと同じじゃないでしょうか。あなた方は来ないでいいよ、聞かなくていいよ、そういうんじゃないでしょうか。じゃあ、そこを何とかお金、お金で済みません、わかっております。ないのもわかります。市長が建てたい、つけたいという気持ちもわかります。何とか私もそれを言われた方たちにとって、こうですよという本当にしっかりした言いわけじゃありません。理由を言えないのは本当に苦しい。本当に建て直したらお金も要るし、そいぎ、ほかのところにもそれこそ予算がなくなって、ほかのところができないようになる。それもあなたに来ちゃいかんよとは言えない。苦しい立場ですけど、いかがでしょう。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

非常に重要な質問だというふうに思っております。私はこのように考えております。例えば、JR九州で博多駅が今改修工事を行われております。佐世保市に行く線、長崎市に行く線は車いすを御利用の方は職員が即座に反応をして上に上げて行っていただいていると。私はそれを見て、一つの方向性がそこにあるのではないかなというふうに考えております。市役所で考えた場合には、今でもそのようになっておるかどうかわかりませんが、そういったお話があった際には、私も含めてこちらの方に上げることはやぶさかではございませんし、むしろ積極的まずそういった現実的な面から私は考えたいというふうに考えております。これはまじめにそのように考えております。

私はもし、エレベーターの設置が5,000千円であったら、あるいは10,000千円だったら、市長の立場として、それを直ちに裁可をし、皆様方に御提案を申し上げたところであります。しかし、議会に上がるために50,000千円。私は開かれた市役所、あるいは議会というのは私もそのとおりであります。しかし、それが果たして市民合意を取り得るか。その50,000千円

があったら、こういった福祉の施設整備に回した方がいいんじゃないかということは、私はあると思います。カバーできる分は職員がみずからカバーをしていきたい。この点については、そのように真摯に考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

気持ちとしては本当に皆さん一緒だと思います。じゃあ、市長がおっしゃるように、その50,000千円が福祉の方でどう使われるか。でも、本当にたった1人のためになって、管内の市の学校でも1人のためにエレベーターをつけていただいた学校もあると聞いております。でも、本当に維持費とかなんとかも大変だということも聞いております。それもわかります。でも、私たちはみんな平等に、それこそ温かいぬくもりのある市だということを示すためには、本当に苦しいですけれども、どうにか考えがないものかと思います。もう一度、それは市長もいらっしゃる、抱えていくと言われると思います。私も思いました。2階までエレベーターで来て、ああ、3階、4階、歩ききらんけん、どがんしゅうかなと思って、助けられながら来ました。1階には車いす御利用の方はおっしゃってくださいと書いてあります。でも1階で車いすを借りたとして、2階まで来て、あとどうすればいいのかな。だから、本当に気持ちはわかりますけれども、その身になったら「市長さん、車いすば3階、4階まで抱えていてください」とか、そこにいらっしゃる、みんなばたばたして働いていらっしゃる方々にですね。

本当に今すぐどうこうしなさいという返事はできないと思いますけれども、庁舎内をもう一度くまなく見て回って、何とかできる方法がないものか、本当に考えていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私が4月16日に着任して以来、最も最初にした仕事が庁内を見て回ったことであります。私はこれを最優先課題と上げて、どういったことができれば開かれた市役所、あるいは議会になるのかということ、最優先課題として私は取り組んできたつもりであります。その観点からすると、私は現実的な解決策として、車いすを御利用の方は2階まで上がってきていただいて、3階、4階にお手伝いをして運んでいくというのが、現実的にはベストだというふうに思っております。本当は私も財源、財源と言いたくありませんけれども、箱物、ハードをつくるということは、それは理想論だと思います。ただし、それを言い出すと話が進まない。したがって、現実的に何ができるか、何をやれば少しでも改善の前進の道ができるか、それを私は考えていきたいというふうに思って、先ほど御答弁いたしました次第であります。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

市長の気持ち、考え方、十分にわかりました。本当に私もそのとおりです。ですから、本当にエレベーターはできない。それ何とか方法を見つける、そのことを本当に皆様に約束していただいて、市長のその温かい心が必ず早急に伝わることを念じて、きょうはそれこそ抱えてきていませんので、多分車いすの方も議会には来られていません。次回は必ず来られるように、前向きな取り組みをお願いしたいと思います。

そして、本当に福祉の面について、バリアフリーについてはもっと言い出せば切りがないほどたくさんありますけれども、今の市長がすべてはここから見て回ったという気持ちをお忘れにならないで、どうぞ市内を見て回られて、みんなが快適に、本当にぬくもりのある市として楽しく過ごしていけるようにしていただくことを期待して、すべての質問を終わります。

以上です。